

基本施策	B3	平和の文化を醸成します		
2025年度に めざす姿	対 象		意 図	
	多くの人々が		当事者として、平和を考え行動している。	
第五次総合計画[前期基本計画]基本施策掲載ページ			73ページ	
基本施策主管課名	平和推進課	関係課名	平和推進課・被爆継承課	

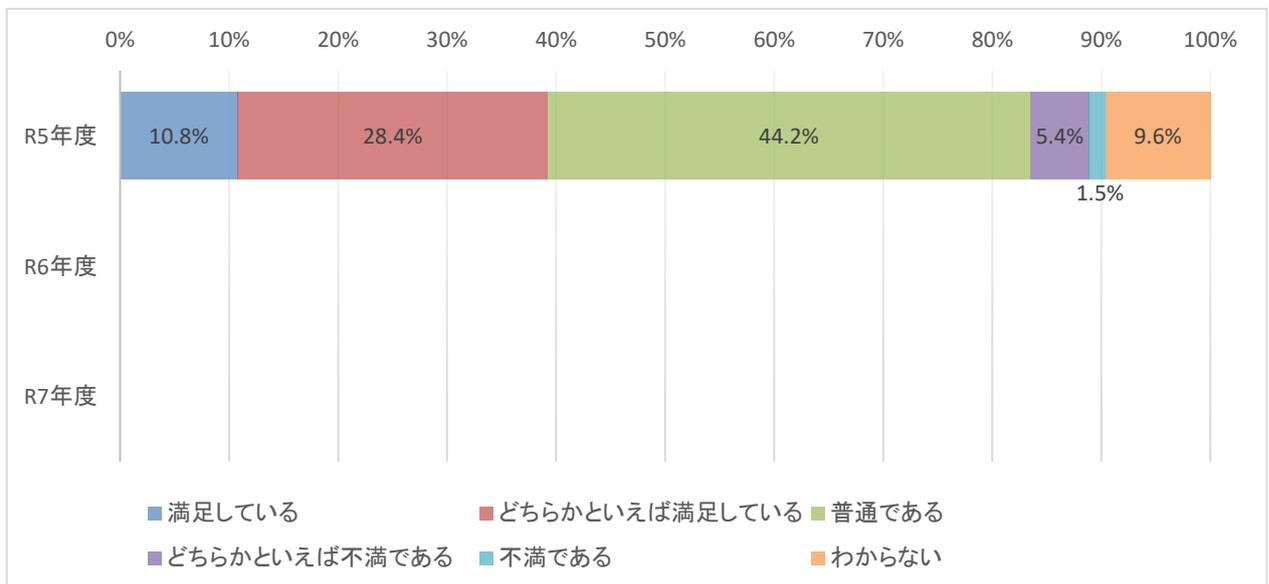
基本施策の総合評価

総括	<p>●基本施策の成果指標である「平和の文化事業認定件数」は、3件(令和5年度実績)で、2025年度(令和7年度)の目標値(累計25件)から換算した年間の増加目標値(5件)を下回っているものの、「平和の文化」を根付かせる取組みは徐々に進んでいる。</p> <p>●市民満足度については、「満足している」及び「どちらかといえば満足している」と回答した人の割合が39.2%で、「不満である」及び「どちらかといえば不満である」と回答した人の割合6.9%を大きく上回る調査結果であった。</p> <p>以上を踏まえ、今後の主な取組みは次のとおりとする。</p>
B3-1	<p>●市民、行政、企業の連携のもと、核兵器や平和について考えることを軸にしながらも、音楽、食、スポーツなどを入り口とした平和イベント「地球市民フェス」を開催するなど、「平和の文化」の取組みを可視化し、その意味合いや取組みなどへの理解を深めるための機会を創出していく。</p>
B3-2	<p>●ピースボランティア登録者の増加を図るため、引き続き、SNS等を活用した情報発信や学校への出前講座などの機会を活用した広報活動により、広く活動内容をアピールし、若者の平和活動への興味や関心を惹き、若者に届く情報発信と積極的な募集に努める。</p> <p>(※再掲:B1-3)</p>

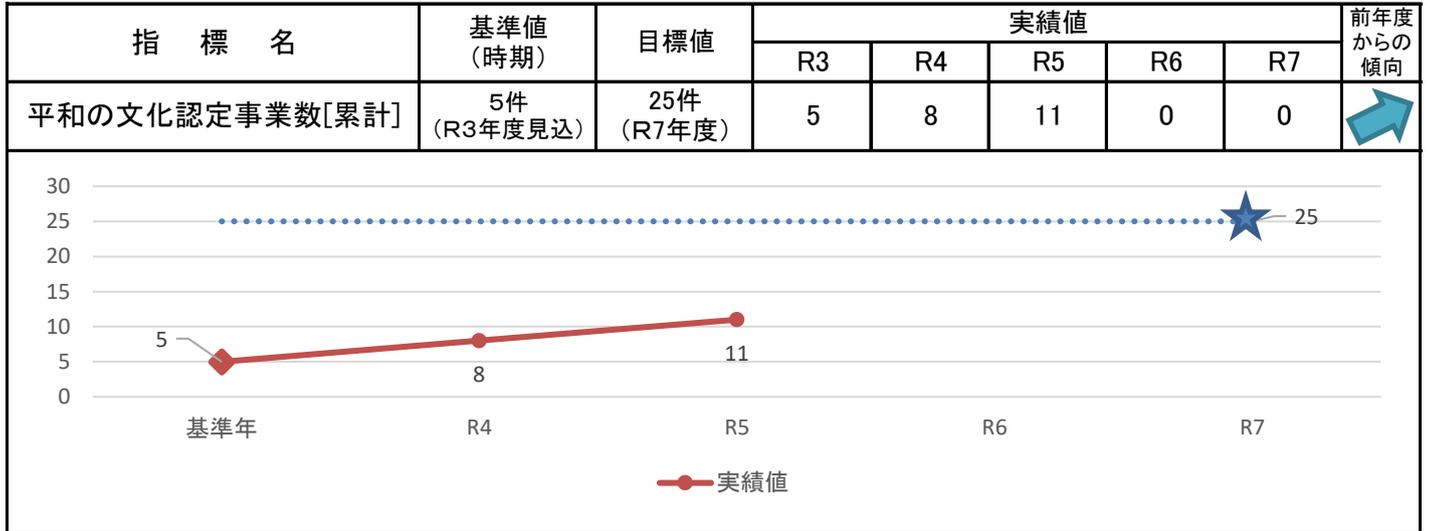
二次評価(施策評価会議による評価)

●	<p>【B1-3・B3-2】 成果等を再掲しているように内容が類似しているため、後期基本計画に向けては施策の統合を検討していくこと。</p>
●	<p>【B3-2】 「ピースボランティアの登録者」については、長崎市内だけではなく市外も含め、関係人口を増やすことを検討していくこと。</p>

基本施策に対する市民満足度調査結果



成果指標



年度別 主な取組内容

R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
<ul style="list-style-type: none"> ・平和の文化キャンペーン事業による平和にふれる機会の創出(21件) ・平和の文化認定事業による平和活動の顕在化(3件) ・平和の新しい伝え方応援事業費補助金交付による新たな伝え方の増(4件) ・青少年ピースボランティアの育成による平和活動を行う青少年の増(活動に参加した延べ人数 664人) ・沖縄派遣研修(少年平和と友情の翼)実施による若い世代の平和活動体験者の増(参加中学生数 29人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・平和の文化キャンペーン事業による平和にふれる機会の創出(32件) ・平和の文化認定事業による平和活動の顕在化(3件) ・平和の新しい伝え方応援事業費補助金交付による新たな伝え方の増(5件) ・青少年ピースボランティアの育成による平和活動を行う青少年の増(活動に参加した延べ人数 695人) 		

令和6年度 個別施策評価シート

個別施策	B3-1	スポーツや芸術などを通して、身近なところから平和について考え、行動する機会を増やします	
2025年度にめざす姿	対 象		意 図
	多くの人々が		スポーツや芸術などを通して、身近なところから平和について考え、行動している。
個別施策主管課名	平和推進課		

成果

① 機会の創出

●9・10・11月の平和の文化キャンペーン期間中に実施する、芸術やスポーツなど様々な分野を入口とした平和に関するイベントとして、11事業増の32の関連事業(※1)を集約し、周知したことにより、「自分に合った平和の取り組みを見つけるきっかけづくり」につながった。また、ホームページやパンフレットの掲載内容を充実し、「平和の文化」の考え方や平和の文化キャンペーンの関連事業を周知したことで、平和の文化の機運醸成に寄与した。

(※1)主な関連事業

- 「Pray for Peace Collection 2023 in 長崎」…長崎から平和への祈りと願いを込めてファッションで発信
- 「“輝く！ながさきのアーティストたち”～オーケストラといっしょに～ 長崎OMURA室内合奏団 20周年記念スペシャルコンサート」…オーケストラの伴奏とともに、少女時代に見聞きた、被爆者の苦しみ、戦争のむなしさなどを伝える朗読劇
- 「明治安田生命Jリーグウォーキングin長崎＜長崎ピースウォーキング＞」…ウォーキングを通じて健康づくりを行いながら平和を発信

●戦争体験のない世代に被爆体験や核兵器の問題を伝えていくために、平和の新しい伝え方応援事業費補助金の交付対象として5事業(※2)を選定し、その取り組みを支援したことで、新たな発想で時代に応じた新しい伝え方にチャレンジする機会の創出につながった。

(※2)交付対象5事業

- 歌とダンスと漫才で平和への想いを届ける…核兵器や平和に関するテーマを「漫才」をはじめ、多角的な視点で伝える
- ろうあ被爆者体験紙芝居プロジェクト…「ろうあ被爆者」に焦点をあて紙芝居を使って手話と音声で被爆の実相を伝える
- 8.9Project…「黙とう」に一点集中し、LINEというツールを使って平和への行動に参加を促す
- GeNuine ジェンダーから核を考える 動画プロジェクト…ジェンダーという視点から核兵器の問題に関心を持ってもらう
- 被爆者証言をアラビア語に翻訳し、中東・アラブ・北アフリカ諸国の特に若者に、被爆の実相を伝える事業…「アラビア語」で被爆体験を伝える

問題点とその要因

① 機会の創出

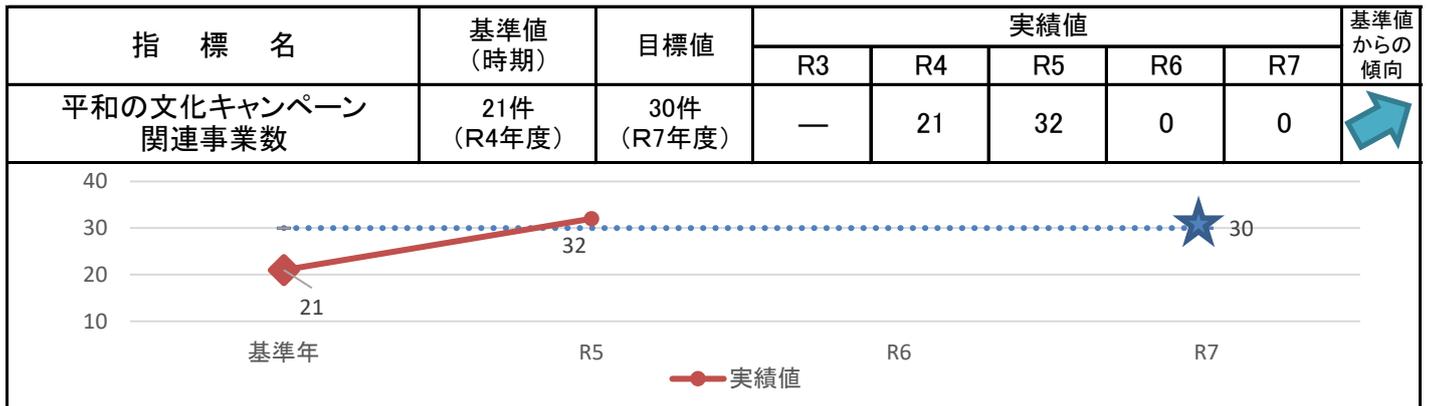
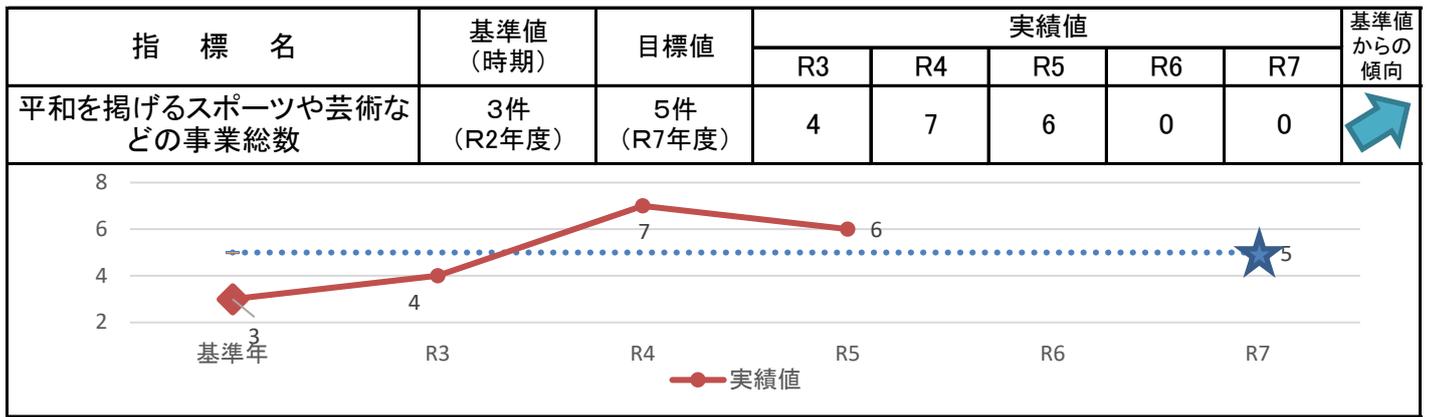
●ホームページの充実などにより周知に努め、関連事業は増えたものの、「平和の文化」の考え方を具体的なイメージとして十分に伝えきれていない。

今後の取組方針

① 機会の創出

新規	●市民、行政、企業の連携のもと、核兵器や平和について考えることを軸にしながらも、音楽、食、スポーツなどを入り口とした平和イベント「地球市民フェス」を開催するなど、「平和の文化」の取り組みを可視化し、その意味合いや取組みなどへの理解を深めるための機会を創出していく。
継続	●平和の新しい伝え方応援事業により、時代に応じた新しい伝え方にチャレンジする個人や団体を応援する取り組みを進める。

成果指標



※令和4年度から平和の文化キャンペーン期間を設定したことにより、「平和の文化」の醸成に、より一層つながりやすいキャンペーン関連事業数を代替指標とした。

施策を推進する主な事業

	事業名 担当課	「平和の文化」醸成事業費	平和推進課
	成果指標	平和の文化キャンペーン関連事業数	 <p>【“輝く！ながさきのアーティストたち”～オーケストラといっしょに～ 長崎OMURA室内合奏団 20周年記念スペシャルコンサート】</p>
	目標値	24件	
	実績値	32件	
	達成率	133.3%	
1	成果指標・ 目標値の説明	多くの事業を平和の文化キャンペーン関連事業に位置付けることで、「自分に合った平和の取り組みを見つけるきっかけづくり」につながることから、平和の文化キャンペーン関連事業数を成果指標とした。 目標値は、事業を開始した令和4年度から毎年度3件ずつ増やし、令和5年度の目標値を24件とした。	
	事業目的	スポーツや芸術など様々な分野を入口に、多くの人々が身近なところから平和について考え行動し、日常の中に平和の文化を根付かせる。	
	事業概要	平和活動の裾野を広げるための取り組みを推進する。	
	取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・平和の文化キャンペーン関連事業 32件 ・平和の文化認定事業 3件 	
		決算(見込)額	2,412,644

2	事業名 担当課	平和の新しい伝え方応援事業費		平和推進課
	成果指標	平和の新しい伝え方応援事業費補助金の交付件数		 <p>【歌とダンスと漫才で平和への想いを届ける】</p>
	目標値	5件		
	実績値	5件		
	達成率	100.0%		
	成果指標・ 目標値の説明	<p>対象事業数が増えることで、戦争体験のない世代に被爆体験や核兵器の問題を伝えていくための機会を創出することにつながるため、補助金の交付件数を成果指標とした。</p> <p>目標値は、毎年5件の交付件数とする。</p>		
	事業目的	戦争体験のない人に被爆の実相や核兵器の問題を伝えていくための取組みを推進することで、被爆の継承や平和発信を効果的に行う。		
	事業概要	新たな発想で多くの人々に届く、時代に応じた平和の新しい伝え方の取組みに補助金を交付する。		
	取組実績	・平和の新しい伝え方応援事業費補助金の交付 5件		
決算(見込)額			984,891 円	

令和6年度 個別施策評価シート

個別施策	B3-2	若い世代を中心に平和の輪を広げます
2025年度に めざす姿	対 象	意 図
	若い世代が	平和の大切さを理解し、伝え、広げるための活動をしている。
個別施策主管課名	被爆継承課	

成果

① 人材の育成と活動機会の拡充

●ピースボランティアにおいて、SNS等による情報発信や学校への出前講座などの機会を活用した広報活動により、広く活動内容をアピールしたことで、登録者数が9人増加し130人となった。また、平和活動等を年50回実施し、延べ695人が活発的に参加したことで、幅広い活動をとおして、次代を担う若者の育成につながった。
〈※再掲: B1-3〉

問題点とその要因

① 人材の育成と活動機会の拡充

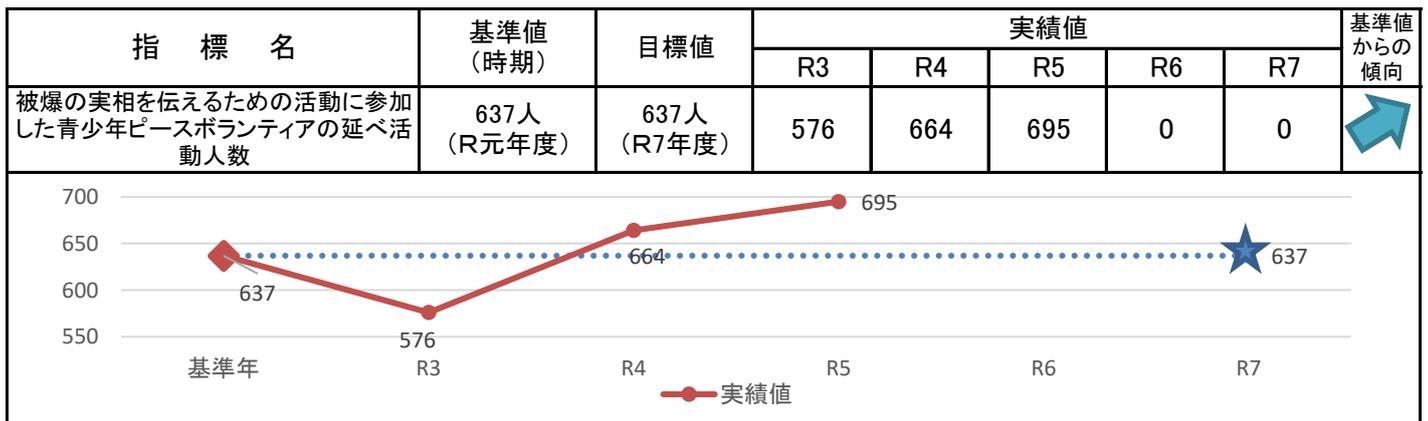
●ピースボランティア登録者数は、前年度に比べ増加したものの、少子化により若者が減少する中で、減少傾向にある。
〈※再掲: B1-3〉

今後の取組方針

① 人材の育成と活動機会の拡充

継続 ●ピースボランティア登録者の増加を図るため、引き続き、SNS等を活用した情報発信や学校への出前講座などの機会を活用した広報活動により、広く活動内容をアピールし、若者の平和活動への興味や関心を惹き、若者に届く情報発信と積極的な募集に努める。
〈※再掲: B1-3〉

成果指標



施策を推進する主な事業

事業名 担当課	被爆体験次世代継承推進費(青少年ピースボランティアの育成)		被爆継承課
成果指標	被爆の実相を伝えるための活動に参加した青少年ピースボランティアの延べ活動人数		 <p data-bbox="1066 667 1517 701">【ピースボランティアによるピースフォーラムの運営】</p>
目標値	637人		
実績値	695人		
達成率	109.1%		
成果指標・ 目標値の説明	<p>ピースボランティアの活動量が保たれることで、被爆の実相や平和の尊さについて理解し活動する若い世代の平和の取組みが継続していくと考えられるため、平和活動に参加した青少年ピースボランティアの延べ活動人数を成果指標とした。</p> <p>五次総計画策定時の直近のピーク値(令和元年度)の活動人数実績(637人)を維持させていくこととして、目標値とした。</p>		
事業目的	青少年の平和意識の高揚と被爆体験の継承を図るため、被爆の実相や戦争について学び、さまざまな視点から平和について考え、行動する機会を提供する。		
事業概要	中学生を除く15歳から30歳未満の青少年を対象に、青少年ピースフォーラムの企画、運営やボランティア活動のほか、さまざまな視点からの被爆の実相や、それらの発信の仕方を学び、若者目線での情報発信などを通して次代を担う青少年の育成を行う。		
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・平和学習会の実施 50回(参加者数:延べ695人) ・県外派遣研修 2コース(広島コース・宮城・福島コース) ・出前講座及び被爆遺構ガイド等の活動 8件ほか <p>※下記決算額うち (青少年ピースボランティアの育成)にかかる事業費:6,578,827円/35,594,530円</p>		
	決算(見込)額	35,594,530	円